

つれづれ

平成29年11月30日(木)

データ改竄^{かいざん}の報道にふれて



大学生の時、金属工学の権威である故宮谷義六先生^{ぎろく}に多くを学びました。ある日の講義で、先生が次のようなことを仰ったことを覚えています。

「日本の産業を支えている三本柱は、エネルギーと情報と材料です。皆さんがこれから学んでいく金属工学

は材料の分野を担っており、日本の産業を支えていく大きな柱であることを忘れないでください」

これからエンジニアを目指そうとしている私たちにとっては、自分たちが学ぼうとしている学問が、社会のために役立つのだと確信のもてる言葉でした。

飛行機が安全に運行できるのは、機体を構成する各パーツの信頼性があるからです。各パーツを構成するのは、金属や炭素繊維、樹脂などの材料です。

ところで、今年10月、神戸製鋼の金属製品の強度に関わるデータ改竄が発覚しました。11月には、三菱マテリアルの子会社と東レで樹脂製品のデータ改竄が発覚しました。

どの会社も日本の産業界をリードする会社です。いずれの会社の製品も、飛行機や自動車の部品を構成する素材（材料）として使われており、その安全性が揺るぎかけない事態です。これまで、日本製品は「made in japan」として世界的にも信頼されてきました。しかし、一連の不祥事により、その信頼は世界的に危ぶまれる事態となっています。今後の詳しい調査で、データ改竄の経緯が明らかになるとともに、出荷された素材（材料）で作られた製品の安全性が確認されることを願っています。

まだ製造物責任法（PL法）が無かった時代に、宮谷先生は次のようにも仰っていました。

「製品の強度や安全性を担保するのは正確な検査による正確なデータです。それを偽ることは、エンジニアとして決してしてはならないことです」

皆さんは、データ改竄のニュースをどう読みとりますか。

<保護者の皆様へ>

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【大阪市教育委員会 天下茶屋中学校】で検索



QR code

天下茶屋中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j762750>